

武雄のその力、「農力」発見

武雄の盆地の、タイルのように敷き詰められた田園風景を見渡すと、田舎だなぁ、という以外の感情がわき上がってきた。先月の市報の編集の際に、武雄鍋島家の底知れぬ探究心と先見性に対する興奮が冷め止まなかったからだろうか。この舞台で幾重にも重なり継承されてきた血筋が、この地を舞台にまた違う物語を生んできたとしたなら、どんなに興奮するだろう。そんな期待感を抱くと、つい「もっと知りた」という欲が出てきた。そのときふと、先月でも取り上げた幕末の偉人、鍋島茂義について伺った意外な一面を思い出した。茂義は砲術な

ど多岐に渡る技術や学問の導入を積極的に行う傍らで、同様に西洋から入手したパイナップルを温室栽培し、客人に贈った、というのだ。発展の種を取り入れ、自らがそれを育み、一つの成果を世に広めていく。この歴史のパズルと重なるような物語が農業にもあるのではないか。今回は、そんなきっかけで取材を始めた農家の中から、幕末の茂義のように自らの貪欲さで力強く歩む、「農力（のうりよく）」とでも言うべき強烈な活力を持つ侍を紹介したい。武雄の農力、一言でいえば、「知が知を呼び、道をひらく力」、とでも言えるだろうか。

特集

武雄の農力



文／池谷知啓 いけや ともひろ
つながる部 フェイスブック・シティ課
静岡県出身。2004年日本大学卒。航空関連会社に従事後、株式会社AIR DO（エア・ドゥ）にて空港旅客サービス、パイロット乗務管理等を経験。妻が佐賀県出身であり、武雄市の取り組みや豊かな環境に興味を抱き、2012年武雄市役所に入庁。営業部観光課を経て、2014年4月より現職。